

**公益財団法人日本バスケットボール協会**  
**平成24年度 定時評議員会 議事録**

**日 時：**平成24年6月23日(土) 13:00～15:25

**場 所：**JBAオフィス 8F会議室

**出 席：**<評議員>

森野和泰、田中雅之、保坂明、沼澤宏、安齋司、岡田裕昭、遠藤嘉津敏、藤嶋市雄、田中敏郎、大野健男、齋藤徳也、半田真一郎、天野寛、真田功、山田洋司、山崎均、青木隆、西憲幸、島澤司、渡邊正知、福井晴次、土田正文、後藤明、湯浅暢宏、新宅博生、宮倉義輝、岡嶋隆文、山本良和、藤村昇、穂山靖夫、中村克司、川武修、木下博順、小坂悦夫、堺知行、祖岩亨道、大塚英彰、野田明宏、加藤裕三、上元康正、鮫島俊秀、喜納武信、安田勝彦、榊原みどり、市川数馬、小口賢司、北澤和基、荒井邦夫、有本功、星芳樹、増島篤、宮地弘孝、森崎秀昭、和田雅也、白谷慶子の各評議員  
<理事>

麻生太郎会長、深津泰彦、伊藤善文、丸尾充の各副会長、樋口隆之専務理事、伊藤信明、梅野哲雄、大滝和雄、片山正明、熊谷秀樹、庄司義明、田窪徹、夏目敏、野村俊郎、萩原伸浩、林直樹、原田茂、松岡憲四郎、吉田長寿の各理事

<監事>

植田滋、高原洋太郎の各監事

<特任委員>

阿部達也、大山妙子、坂本昌彦の各特任委員

**欠 席：**藤原修、小野安壮、小倉健一、近藤豊志、中村哲夫の各評議員

臼井秀明、上島正光、品田奥義、鈴木秀太、橋本信雄、水谷豊の各理事、小倉恭志、高橋雅弘、手塚純、西井歳晴、三木英之の各特任委員

**議 題**

- (1) 平成23年度決算報告について
- (2) 平成24年度補正予算について
- (3) 基本規程について
- (4) 名誉顧問、顧問、参与について
- (5) 役員選任について

開会に先立ち、本年度国体開催地となる岐阜県の島澤理事長ほか地元担当者より国体開催についての挨拶があった。

---

**1. 定足数の報告**

松岡事務局長より定刻における出席者数の報告があり、定款16条2に基づき、評議員総数(60名)の過半数

の出席(出席:54名)を満たすため、会議成立が宣せられた。

## 2. 挨拶

麻生会長より開会の挨拶があった。

## 3. 議長選出

松岡事務局長より、議長選出にあたっては、これまでの評議員代表者による協議により、前回通り、議長に北海道の森野和泰評議員、副議長に北信越・富山県の山崎均評議員および四国・香川県の小坂悦夫評議員が推薦され、承認された。

## 4. 議事録署名人選出

議事録署名人については、定款第19条により議長および出席評議員代表2名以上が必要になることから、議長より議事録署名人として滋賀県の後藤明評議員、大分県に加藤裕三評議員が推薦され、承認された。

## 5. 議事

### (1) 平成23年度決算報告について (樋口専務理事、松岡理事)

決算報告に先立ち、樋口専務理事より平成23年度事業報告について、資料に基づき説明があった。

平成23年度の決算概要については、収入面では、国内大会、国際大会での協賛金収入等の減により予算比20, 442千円減、支出面では、強化部門等の支出減があったが、オフィス移転による当初予算外の支出があり、予算比4, 265千円増、この結果、当期合計収支は予算比マイナス24, 707千円となり、前期繰越金との相殺後の次期繰越金は430, 503千円となったことの説明があった。また、植田監事より財務諸表、事業報告書の内容が正しいものであるとの監査報告があり、審議の結果、原案通り承認された。

その他、関連事項として、前男子日本代表ヘッドコーチのトーマス・ウィスマン氏および前女子日本代表ヘッドコーチの中川文一氏とはいずれも和解が成立したことが補足された。

<決算概要(収支計算書ベース)>

(単位:千円)

	予算	実績	予算比
総収入合計	1,170,858	1,150,416	-20,442
総支出合計	1,290,855	1,295,120	4,265
当期合計収支	-119,997	-144,704	-24,707
前期繰越金		575,207	
次期繰越金		430,503	

<承認>

### (2) 平成24年度補正予算について (松岡理事、吉田理事)

補正予算作成にあたり、「バスケットボールファミリーの拡大=普及」、「競技力向上=日本代表の強化」というJBAとしての命題に取り組むための今後の事業戦略が説明され、具体的な施策として、①登録者向け

サービス事業の展開、②普及事業の推進、③国際競技会の国内開催、④都道府県協会・連盟の活性化事業の推進が挙げられた。これらを実行するため、ゼビオグループとのエグゼクティブパートナー契約に基づいた補正予算が提案され、収支同額の263,000千円を追加計上することが承認された。また、関連して、FIBAの3×3(スリーバイスリー)についての基本方針およびJBAとしての今後の取り組みの内容が報告された。

尚、JBAポイントカード発行に関する個人情報の扱いについての質問があり、TeamJBA利用規約は登録管理システム導入時から運用されていること、規約上では有益なサービス提供を行うことを目的に協賛企業に情報提供を行うことが出来ることにはなっているが、今回のケースについては、個人情報等は一切渡していないことが説明された。

<補正予算概要>

(単位:千円)

	当初予算	補正額	補正後予算
総収入合計	1,119,817	263,000	1,382,817
総支出合計	1,249,681	263,000	1,512,681
合計収支	-129,864	0	-129,864

(3) 基本規程について (森野議長)

基本規程の制定について、前回の臨時評議員会後の説明会だけではまだ理解が十分ではないことから、今回の審議は見送り、評議員、加盟団体の代表、理事、または専門家等も入れて再度検討することとなった。尚、基本規程に定めている内容のうち、業務執行に関する部分については仮執行というかたちで進めることが提案され、了承された。

<継続審議>

(4) 名誉顧問、顧問、参与について (松岡理事)

定款第28条に基づいた名誉顧問、顧問、参与の委嘱にあたり、既に理事会で承認を得た名誉顧問2名、顧問11名、参与76名が承認された。

尚、今期の役員改選に伴う理事等退任者の参与等への推薦については、理事会に一任することもあわせて承認された。

<承認>

(5) 役員選任について (麻生会長)

平成24・25年度の役員選任にあたり、役員候補者選定委員会より理事候補者23名、監事候補者3名が推薦された。議決方法については、定款第18条に基づいて候補者ごとの決議が必要なことから、候補者ごとの書面投票を行うこと、またそれに当たっては、候補者に現評議員が候補者に含まれているため、当該者本人による投票は除くこと、白票(無記入)があった場合には無効票として母数から除くことが確認された。開票の結果、候補者全員が出席評議員の過半数を上回る賛成を得、原案通り承認された。

尚、ブロックから推薦された9名のうち北海道ブロック推薦の上島氏については、特任委員として理事会メンバーに加わっていただく予定であることが補足説明された。

<理事(50音順)>

	氏名	留・再・新	年齢(6/23現在)	備考
1	麻生 太郎	留任	71歳	※5月26日臨時評議員会にて既決
2	伊藤 信明	留任	66歳	◆中国ブロック推薦
3	梅野 哲雄	留任	66歳	◆九州ブロック推薦
4	大神 訓章	新任	63歳	
5	大山 妙子	新任	38歳	
6	熊谷 秀樹	留任	61歳	◆東北ブロック推薦
7	坂本 昌彦	新任	58歳	
8	佐古 賢一	新任	41歳	
9	佐々木 三男	新任	63歳	
10	品田 奥義	留任	55歳	
11	庄司 義明	留任	58歳	
12	鈴木 秀太	留任	66歳	
13	高橋 雅弘	新任	52歳	
14	田窪 徹	留任	64歳	◆四国ブロック推薦
15	野村 俊郎	留任	62歳	◆関東ブロック推薦
16	原田 茂	留任	67歳	◆近畿ブロック推薦
17	樋口 隆之	留任	65歳	
18	深津 泰彦	留任	67歳	
19	福井 晴次	新任	60歳	◆東海ブロック推薦
20	堀井 幹也	新任	52歳	
21	丸尾 充	留任	63歳	
22	水谷 豊	留任	68歳	
23	吉田 長寿	留任	42歳	
24	吉田 利治	新任	53歳	

<監事(50音順)>

	氏名	留・再・新	年齢(6/23現在)	備考
1	高原 洋太郎	留任	56歳	
2	松岡 憲四郎	新任	65歳	
3	山崎 均	新任	59歳	◆北信越ブロック推薦

<承認>

4. 報告事項

(1) 平成23年度事業報告について（樋口専務理事）

平成23年度事業報告については、平成23年度決算報告に関連する内容として、決算報告に先立って説明があった。

(2) **新リーグについて**（丸尾副会長）

2013年からスタートする新たなリーグについての基本方針が資料に基づき説明された。

参加チームについては、Aリーグ（上位リーグ）12チーム、Bリーグ（下位リーグ）10チームとなり、当初目指していたJBLとbjリーグ大同団結にまでいたらなかったことについてのお詫びがあった。

また、当初2年間はJBA内の運営本部にてリーグ運営を行うことを計画していたが、立ち上げまでの1年間は運営本部とし、2013年以降の新リーグ運営は一般社団法人形態を目指すことなど、2011年12月の公募開始時におけるリーグ概要とのいくつかの変更点について説明があった。

評議員からはなぜbjリーグと一緒になれなかったのかといった意見があり、過去の経緯などからJBAや企業チームへの疑心暗鬼が払拭できなかったことが挙げられた。

但し、チーム名への地域名の付与、Aリーグのチームはホームゲームを自主興行すること、レギュラーシーズンの試合数増などについてはクリアしており、2013年にスタートするリーグが最終形ではなく、今後も多くのチームが参加したいと思える魅力あるリーグを目指し続け、野球、サッカーに並ぶ第3のメジャースポーツ、インドア競技のNo. 1プロフェッショナルスポーツに向けてまずは第1歩を踏み出し、次のステップへ進んでいきたい旨説明された。

(3) **全国ミニバス大会について**（坂本特任委員）

平成9年度の全国ミニ大会から実施している1チーム構成学校数の制限、通称「4校枠」について、少子化などの社会現象を踏まえ、3年にわたって検討を行ってきたこと、検討の結果、「4校枠」は原則継続するものの、日本ミニバスケットボール連盟のねらいである「普及・育成」の観点を逸脱するものでなければ特例として出場を認めるという結論に至ったことが報告された。

以上